

「STOP!インボイス」のオンライン署名について

「インボイス制度を考えるフリーランスの会」、通称「STOP!インボイス」は、オンライン署名を起ち上げて以降、約2年の間に計3回、財務省などに署名を提出してきました。しかし、政府は「円滑な導入を進める」と繰り返すだけで、インボイス制度に関する多くの問題は放置されたままです。

同時に、メディアにこの問題を扱ってもらおうと、署名提出の度に記者会見を開いてきましたが、開始直前になっても問題の本質を報道してくれるメディアはほとんどなく、その結果、開始直前にもかかわらず、いまだにインボイス制度を知らない人が3割もいるのが現実です（報道ステーション世論調査 <https://www.tv-asahi.co.jp/hst/poll/202309/>）。

これまで当会は、インボイス制度を止めるためにはオンライン署名で集まった反対の「声」を自民党国会議員に届けることが必要だと考え、鈴木俊一財務大臣をはじめ、さまざまな自民党国会議員に署名の受け渡しを試みてきましたが、いずれもかないませんでした。

そうした中、オンライン署名数が国内史上最多の50万筆超となったことで、メディアからの問い合わせが急増。制度開始直前の今、唯一、「中止・延期」を決断できる岸田総理に「直接会って手渡すこと」がもっとも効果的な方法であると考え、岸田総理への直接の受け渡し、あるいは秘書への受け渡し、同時に萩生田光一政務調査会長への受け渡しも含めて交渉を続けてきました。その結果、岸田文雄国会事務所より「郵送」であれば受け付けるという回答がありました。※詳細な経緯は〈「STOP!インボイス」オンライン署名提出の経緯とこれまでの活動について〉を参照

しかし、郵送しただけではこれまでと同様に、インボイス制度の問題点も、私たちの声も、政府とメディアに届くことなく終わってしまうのではないかと危惧し、あくまでも直接声を届けるために「手渡し」にこだわり、「郵送」することを見送りました。

実際、署名以前に手渡しを断られ、岸田文雄国会事務所に郵送、同時に萩生田光一国会事務所を訪問し、秘書に渡していた「緊急提言」については、送付から2週間経った9月28日現在も、反応はありません。

なお、25日に官邸前で集会を行ったのは、文字通り、当事者の「声」を直接届ける行為をメディアに報道してもらい、問題を可視化するためであり、一部SNS等で噂されているような、「アポ無しで官邸に直撃して署名を渡す」意図で開催したものではありません。

政治・社会活動の経験がなく、業界団体などにも所属していないフリーランスの発起人が、インボイス制度の問題点を広く世に問うため、もっとも身近に声を上げられるツールとして選択したのが、オンライン署名でした。リアルなつながりも人手も資金も乏しい私たちはSNSが活動のメインの場所でしたが、オンライン署名との親和性は高く、制度開始を前に賛同者が急増。結果、日本最多署名数となる54万筆を突破しました。

その一方、オンライン署名は国内法がなく、集まった署名を届けるための「正規のルート」や「正しい取り扱い方」が存在しません。加えて、団体に所属しない個人の集まりである当会は、もともと政治にアクセスしにくい立場にあり、集まった声を政府に届けることは容易ではありませんでした。

フリーランス新法の整備が進み、政府を挙げてフリーランスという働き方を後押しするなか、オンライン署名の「政治的アクセス」を法整備することを含め、これまで可視化されてこなかった小規模事業者やフリーランスといった一人ひとりの声を、迅速に政治に反映する仕組みづくりが必要ではないかと考えます。

今回、「署名受け取り拒否」という言葉が脚光を浴び、これまで無視され続けてきたメディアから取材依頼が殺到しました。インボイス制度の問題点や当事者の声ではなく、「署名を受け取ったか否か」にフォーカスが当たっていることに、戸惑いを感じています。

インボイス制度導入によって苦しんでいる人一人ひとりの「声」を報じてもらうために我々は賛同者を募り、それに対して54万超の皆さんが勇気を出して立ち上がってくれたのです。その「思い」や問題点に向き合わず、表面的な事象に終始するメディアの姿勢は、今の政府のスタンスとかぶるものがあります。小さな声をすくいにとって多くの人に届けることが、“マスメディア”の役目ではないでしょうか。

昨日9月27日、松野博一内閣官房長官が定例会見の中で当会の署名提出について触れ、「政府に届けば適切に対処する」と発言されました。ついては、当会は、政府に54万筆超のオンライン署名を「手渡し」する要請を行います。

2023年9月28日
インボイス制度を考えるフリーランスの会

「STOP!インボイス」オンライン署名提出の経緯と これまでの活動について

- 2021年12月1日 インボイス反対オンライン署名「《#STOPインボイス》多様な働き方とカルチャーを衰退させるインボイス制度に抗議します」を立ち上げる。
- 2021年12月16日 オンライン署名 3万1570筆 財務省へ提出①
記者会見を実施。
- 2022年3月上旬 自民党国会議員Aと面会。オンライン署名と団体名に関するアドバイスを受ける。
これまで名乗っていた「STOP!インボイス市民の会」から現在の「インボイス制度を考えるフリーランスの会」に名称を変更。
- 2022年8月下旬 自民党国会議員Bと面会。今後の活動に関するアドバイスを受ける。
後の10月1日「銀座ピクニックデモ」、10月26日「#私がSTOPインボイスの声をあげる理由」(集会)の開催につながる。
- 2022年9月上旬 自民党国会議員Cと面会。団体賛同者名簿を受け取って欲しいと伝えたところ、
個人情報の問題などから断られる。
「インボイスを止めるためには団体、組織をつれて来るように」と提言される。
さまざまな当事者、専門家の団体に賛同の呼びかけをはじめ。
- 2022年10月25日 オンライン署名が10万筆超に。
- 2022年10月26日 初の大規模集会「#私がSTOPインボイスの声をあげる理由」を日比谷公園大音楽堂で開催。
- 2022年11月上旬 自民党国会議員Dと面会。オンライン署名の話題の中で10万筆では足りないこと、
30万筆以上は必要という話が出る。
オンライン署名の受け取りは政治的立場を理由に断られる。
- 2022年11月16日 「エンタメ4団体 インボイス制度見直しを求める記者会見&インボイス問題検討・
超党派議員連盟(以下、超党派議連)発足 公開ヒアリング第1回」開催。
以後、超党派議連の会合は7回行われ、毎回、さまざまな形で協力をする。
- 2023年1月上旬 某自民党国会議員秘書に連絡。
自民党議員へのオンライン署名の受け取りについて相談するも、勉強会の実施
など別の提案を受ける。

- 2023年2月13日 オンライン署名 18万162筆 財務省へ提出②
「STOP!インボイス業界横断記者会見」を実施。
- 2023年6月14日 「STOP!インボイス全国一揆」を国会正門前で開催。
- 2023年8月16日 超党派議連と打ち合わせ。
9月4日に行う緊急提言記者会見に合わせて、鈴木俊一財務大臣との面会および緊急提言とオンライン署名の受け渡しができないか、超党派議連を通じて要請することを依頼する。
- 2023年8月下旬 財務省より鈴木財務大臣との面会は超党派議連役員の議員のみでお願いしますとの回答を得る。
その後、財務大臣ではなく財務副大臣対応になったことが伝えられる。
さらに9月4日当日、副大臣が病気と伝えられ、代わりに財務大臣政務官が超党派議連役員の議員団と面会。
- 2023年8月29日 自由民主党本部に電話。
9月4日の記者会見にて発表する緊急提言を岸田首相に渡したい旨を相談。岸田文雄国会事務所に問い合わせるように指示を受ける。
- 同日 岸田文雄国会事務所に電話。
対応した秘書より、岸田首相および秘書の記者会見への出席、議員事務所への訪問による緊急提言の受け渡し、秘書への受け渡し、これらについてはセキュリティ上の都合のために受け付けないことが伝えられる。
ただし、郵送にて受け付けるとの回答を得る。
- 同日 自民党の政務調査会長・萩生田光一国会事務所に電話。緊急提言を渡したい旨を相談。
担当した秘書より「9月4日に事務所に来れば秘書が受け取る」と言われる。
萩生田政調会長に直接、手渡しすることは断られる。
- 2023年9月4日 オンライン署名36万1171筆ならびに緊急提言を財務省・国税庁・公正取引委員会、野党各党へ提出③
記者会見を実施。
超党派議連による鈴木財務大臣への面会がかなわなかったことは前述の通り。
- 同日 萩生田光一国会事務所を訪問。緊急提言を秘書が受領。
萩生田政調会長との面会を改めて調整できないかと尋ねるも、断られる。
これらのやり取りはドアを半分開けた状態で、STOP!インボイスのメンバー 3人は外にいる形で行われた。
名刺交換をする間もなく、緊急提言を受け取ってもらったのみで終了。

- 2023年9月13日 岸田文雄国会事務所に緊急提言を郵送。
- 同日 岸田文雄国会事務所に電話。緊急提言を郵送したことを報告。
期日は設けずオンライン署名の受け渡しができないか相談したが、8月29日の回答と同様、郵送のみの受付で直接の手渡しはできないとの回答を得る。
- 同日 野党の国会議員に岸田首相へオンライン署名の手渡しを要請できないか相談。
- 2023年9月中旬 自民党国会議員Eと面会。オンライン署名を岸田首相に直接手渡したい旨を相談。
萩生田政調会長に電話で問い合わせると伝えられる。
- 2023年9月中旬 自民党国会議員Eの秘書と電話。
岸田首相への手渡しが無理なら、萩生田政調会長に手渡したい旨を伝える。
- 2023年9月中旬 自民党国会議員Eの秘書と電話。
岸田首相と萩生田政調会長への直接のオンライン署名の受け渡しはできないとの回答を得る。
- 2023年9月22日 オンライン署名が46万6000筆を超え、オンライン署名国内最多の賛同数を記録。
- 2023年9月24日 オンライン署名が50万筆超に。
- 2023年9月25日 「LISTEN TO OUR VOICE 岸田総理にSTOP!インボイス 史上最多オンライン署名(50万超)の声を届けようアクション」を官邸前にて開催。

インボイス制度を考えるフリーランスの会